

『平成30年度 全国学力・学習状況調査 結果・分析』

江戸川区立一之江第二小学校

調査日 平成30年4月17日（火）

対象学年 第6学年実施人数： 131名

【結果】

《結果》平均正答率	国語A（知識）	国語B（活用）	算数A（知識）	算数B（活用）	理科
本校	71%	59%	69%	55%	64%
江戸川区	69%	53%	63%	50%	59%
東京都	74%	57%	67%	55%	62%
全国	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%	60.3%

【全体の分析】

- 5項目の内、3項目（国語B、算数A、理科）において、江戸川区、東京都、全国の平均正答率を上回っている。
- 国語Bは、江戸川区、東京都、全国、平均正答率を上回っているものの、国語Aは東京都の平均正答率より低い結果となった。一部、基礎的な学力に課題があると考えられる。
- 算数Aは、江戸川区、東京都、全国の平均正答率を上回り、算数Bは東京都の平均と同じとなった。基礎的な学力、活用する力が大方定着していることがうかがえる。
- 理科は、江戸川区、東京都、全国の平均正答率を上回っていることから、学習内容の定着が図れていると考えられる。

【教科ごとの分析】

国語

	国語A（基礎）					国語B（活用）			
	全体	話す・聞く	書く	読む	言語	全体	話す・聞く	書く	読む
本校	71	90.8	72.3	76.2	67.3	59	67.7	51.7	56.2
江戸川区	69	91.2	74	74.3	64.7	53	63.1	42.8	47.2
東京都	74	92.6	77.9	76.5	69.9	57	66.8	47.1	52.1
全国	70.7	90.8	73.8	74	67	54.7	64.6	45.6	50.8

- 基礎の問題においては、全体で、江戸川区、全国平均を上回るものの、東京都の平均に届かなかった。
- 活用の問題においては、全ての項目において、江戸川区、東京都、全国平均を上回った。

昨年度までの校内研究で、国語の説明文の学習に力を入れ、学習したことを自分なりにまとめる活動を様々な場面で取り入れている。そのことから、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力が、児童に身に付いていると考えられる。

一方、基礎の問題において、文の中における主語と述語の関係、適切な敬語の使い方の正答率が、他の問題に比べて低かった。普段の授業の中でも意識的に取り組んでいきたい。

算数

	算数A（基礎）					算数B（活用）				
	全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係	全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係
本校	69	69.7	74.6	62.3	70.2	55	61	56.3	63.1	47.8
江戸川区	63	62.8	71.2	56.1	60.1	50	56.8	51.4	58.6	44
東京都	67	67.2	74	61.7	65.3	55	61.6	56.7	64.1	49
全国	63.5	62.3	72.7	56.9	60.1	51.5	58.4	52.4	59.9	45.1

- 基礎の問題においては、全ての項目において、江戸川区、東京都、全国平均を上回った。
- 活用の問題においては、全体で、江戸川区、全国平均を上回り、東京都と同じ正答率となった。
- 全体で、江戸川区、全国平均を上回った。
- 全体で見ると、東京都の平均と同じものの、項目ごとに見ると、それぞれの正答率は、東京都の平均に至っていない。

本校では、毎週水曜日の朝に取り組んでいる『パワーアップモーニング』、金曜日に取り組んでいる『パワーアップフライデー』、毎学期1度取り組んでいる『家庭学習週間』において、東京ベーシックドリルを活用して基礎・基本の定着に取り組んでいる。また本校で作成している学習カルテにより、算数の学力の見える化を図っている。今後も、家庭と連携しながら児童の基礎・基本の定着を推進していきたい。

数と計算、量と測定、図形の領域においては、複雑な問題となると、正答率が下がる傾向にある。普段の授業において、課題に対して様々な視点から解決方法を検討する活動を、更に充実させていきたい。

理科

	全体	A区分		B区分	
		物質	エネルギー	生命	知球
本校	64	64.8	54.6	78.5	53.6
江戸川区	59	60.4	50	72.1	47.3
東京都	62	62	55.2	74.3	51.3
全国	60.3	59.8	53.1	73.6	49.5

- 全体で、江戸川区、東京都、全国平均を上回った。
- エネルギー（電流）の領域は、東京都と全国の平均に届かなかった。

理科の授業を構成する上で、可能な限り、実験を通じてその現象を目の前で見、自らの体験を通じて学習内容が理解できるように努めている。ただ、エネルギー（電流）の問題においては、回路を流れる電流の働きや方向を、正しく理解できていない児童が一部いたようである。複雑な実験が多く、正しい結果が出なかったり、結果と考察を繋げることが難しかったりする領域である。そのことが、児童の習熟に影響したと考えられる。

本校では、理科の学習や実験道具を充実させるため、理科支援委員が在籍し、教材の準備の支援を行っている。今後も学習を通じて、多くの児童が「理科が好きだ。」と言え、習熟を図ることができるように努める。

今回の調査では、調査を実施した全教科において、江戸川区、全国の平均正答率を上回った。本校の取り組みが、児童の学力の定着に繋がっていると考えられる。一方、国語A（基礎）は、東京都の平均点に届かず、課題として明確になった。

成果と課題を日々の学習に生かし、児童の更なる学力の向上を図っていきたい。